

2025 年度 地域安全学会春季研究発表会（兵庫） 発表者・司会とタイムテーブル（5/16(金)前半 12:00-13:30）※1 演題あたり発表 7 分+質疑 3 分

	E-1 会場: JICA-2F OR	F-1 会場: DRI-4F2	G-1 会場: DRI-4F3	H-1 会場: JICA-3F1	I-1 会場: JICA-2F Auditorium	J-1 会場: JICA-3F2
時間	司会: 越村俊一(東北大学)	司会: 越山健治(関西大学)	司会: 南沢 修(山梨大学)	司会: 佐藤 慶一(専修大学)	司会: 有吉恭子(吹田市役所)	司会: 紅谷昇平(兵庫県立大学)
12:00- 12:10	E01: 早川 宙輝 AI 技術を活用した強震動予測手法の 2024 年能登半島地震への適用	F01: 石塚 直樹 災害復興過程が地域社会に及ぼす影 響に関する研究—新潟県中越地震被災 地域における 20 年後のインタビュー 調査を通じて—	G01: 富澤 周 戦後日本における災害対策基本法以 前の自治体による災害対策に関する 一考察	H01: 金子 幸喜 自治体向け時空間地理情報システム の災害規模に応じた情報管理への利 活用に関する一考察	I01: 吉田 悠起 令和 6 年能登半島地震における能登 町災害対応の検証	J01: 島川 英介 気象庁予報課の組織分析からみる防 災への傾斜
12:10- 12:20	E02: 大串 文誉 衛星 SAR 観測データによる 2025 年ミ ャンマー地震の被害把握	F02: 阿部 翔平 東日本大震災の津波被災地における 人口移動の要因に関する研究	G02: 杉山 正晃 都市火災の空間的偏在と地域特性の 分析	H02: 小村 隆史 「カウントダウンタイマー」時代の防災 論議と災害図上訓練 DIG のこれから	I02: 吉田 昂真 令和 6 年能登半島地震における多文 化防災の課題について	J02: 渡邊 勇 観光促進と津波防災啓発を両立させる 動画の開発: 山形県酒田市飛島の事 例
12:20- 12:30	E03: 藤田 翔乃 地震災害時におけるマルチセンシング データを用いた孤立集落の推定手法 の開発	F03: 金山 侑真 津波被災地における集団移転跡地の 土地利用計画とその現状に関する研究	G03: 成井 竣亮 市街地火災における火面長と消防活 動量の比較分析—2016 年糸魚川市 大規模火災・2024 年輪島市大規模火 災の事例から—	H03: 石原 貴代 災害ボランティアセンターの防災倉庫 の備蓄品の一考察	I03: 宮定 章 能登半島地震・豪雨による複合災害を 受けた被災者の住まいの再建と集落 復興の現状と課題—輪島市の沿岸地 区を事例として—	J03: 本荘 雄一 近年における事前防災対策による自然 災害の被害軽減効果の実証分析
12:30- 12:40	E04: 笠松 健太郎 免震建物設計への微動アレイ探査の 適用	F04: 坪井 塑太郎 令和元年台風第 19 号の被災以降に おける地域防災と災害対応方策に関 する研究—栃木県宇都宮市を事例とし て—	G04: 西村 実穂 東京都足立区内における保育施設の 水害発生時の対応	H04: 石内 鉄平 高齢者を対象とした VR 利用による防災 教育の可能性に関する研究	I04: 篠田 昌弘 自衛隊災害派遣活動に資する令和 6 年能登半島地震後の広域的斜面崩壊 危険度評価	J04: 成田 浩志 カスタマーハラスメント対策における戦 略的セキュリティマネジメントの実装と 理論的基盤—フィルター理論、防犯ピ ラミッド理論の応用と実務における AI の活用
12:40- 12:45	時間調整 (5 分)					
12:45- 12:55	E05: 関 松太郎 神社鳥居の地震時挙動と耐震性に関 する考察(その 3. 2024 年能登半島地 震の被害分析: 石造明神型鳥居)	F05: 佐藤 翔輔 2024 年 7 月豪雨における「犠牲者ゼロ 」であった山形県戸沢村蔵岡地区の 住民対応	G05: 中野 晋 徳島県内の保育施設を対象とした水害 発生時の対応に関するアンケート調査	H05: 金 玖淑 令和 6 年 8 月の南海トラフ地震臨時情 報発表時の自治体対応の実態と課題 —和歌山県沿岸市町村へのヒアリング 調査を通じて—	I05: 松崎 圭 令和 6 年能登半島地震による金沢市 額谷ふれあい体育館での広域避難所 運営に関する研究	J05: 神坂 峻 武蔵小杉駅周辺高層マンション住民の 地震対策と避難行動に関する実態調 査
12:55- 13:05	E06: 鈴木 崇伸 車載カメラ映像を用いた 2024 年能登 半島地震における電柱の被害判読	F06: 川西 勝 災害の周年報道と集会的記憶 その 2 —阪神・淡路大震災 30 年 テレビ番組 アーカイブ放送の意義—	G06: 加藤 禎洋 災害対応検証報告書の分析手法の確 立に向けた検討	H06: 安藤 亜矢子 兵庫県内の基礎自治体における在宅 高齢者に対する防災対策の事例調査 報告	I06: 星 美沙希 2024 年能登半島地震の津波避難にお ける車の利用状況とその要因	J06: 森保 純子 災害時要援護者の「情報」は地域にど う存在しているのか—フェーズフリーな 仕組みづくりをめざして—
13:05- 13:15	E07: 千葉 啓広 孤立集落対策に向けた道路被災リスク の事前検討に関する研究	F07: 石田 裕之 復興公営住宅における高齢者見守り 支援者へのヒアリング調査	G07: 辻岡 綾 災害時に発出される関連通知・事務連 絡等に係る整理	H07: 宇野 宏司 ポストコロナ禍のみなどオアシスにお ける BCP 策定に向けた現状と課題	I07: 柄谷 友香 能登半島地震後の離島の集落自治会 による住民対応の実態と集落存続へ の課題—「通訳型リーダー」の萌芽を 捉える—	J07: 寅屋敷 哲也 地域の帰宅困難者対策の計画に係る 問題—渋谷駅周辺地域を対象として—
13:15- 13:25	E08: 深津 宗祐 常時微動観測に基づく横断歩道橋の 振動特性の考察	F08: 鄭 智允 災害時の地域コミュニティにおける小 規模太陽光発電所の活用可能性-三 重県を対象としたエネルギー需給分析 -	G08: 岸江 竜彦 都道府県地域防災計画に指揮・統制プ ロセスの活動項目は規定されているか —三重県地域防災計画(風水害等対 策編)を事例に—	H08: 落合 努 発達段階に応じた小学校高学年への 防災教育の実施例	I08: 長島 雄介 自分の身を守るための知識を身に付け た児童が地震遭遇時にどのような行動 をとったのか-令和 6 年能登半島地震 を例に-	J08: 橘 泰嗣 マンションに居住する災害弱者の災害 対策の現状について—神戸市中央区港 島地区での全世帯アンケートの結果か ら

ACUDR ポスターセッション (JICA 講堂) と休憩 : 13:40-14:10

2025 年度 地域安全学会春季研究発表会（兵庫） 発表者・司会とタイムテーブル（5/16(金)後半 14:20-16:05）

時間	E-2 会場: JICA-2F OR	F-2 会場: DRI-4F2	G-2 会場: DRI-4F3	H-2 会場: JICA-3F1	I-2 会場: JICA-2F Auditorium	J-2 会場: JICA-3F2
	司会: 千葉啓広(名古屋大学)	司会: 坪井塑太郎(帝京大学)	司会: 中野 晋(徳島大学)	司会: 金 孜淑(京都大学)	司会: 宮定 章(和歌山信愛大学)	司会: 寅屋敷哲也(早稲田大学)
14:20- 14:30	E09: 時重 健実 様々な地震動に対する弾塑性応答解析に基づく建物共振指標の妥当性の検証	F09: 伊藤 愛斗 トルコの防災における現状と課題について—コジャエリ地震とカフラマンマラシュ地震の比較より—	G09: 吉村 裕司 我が国法令における「総合調整」「調整」の概念～災害対策基本法における「総合調整」の概念は現在の法令における「総合調整」の概念に一致するの～	H09: 柴野 将行 自治体の災害対策本部運営訓練の現状—自治体のアンケート調査をもとに—	I09: 湯井 恵美子 大規模地震災害における福祉避難所運営の現状と課題—令和 6 年能登半島地震被災地の福祉施設への調査から—	J09: 永松 伸吾 マンションにおける災害時給水支援ボランティアの運動強度の推計
14:30- 14:40	E10: 江口 拓生 表面波探査による白紫池(宮崎県)火口縁の振動特性の分析	F10: 村上 ひとみ 2023 年トルコ・カフラマンマラシュ地震の後続地震によるマラティヤ県の建物被害と人的被害	G10: 宮本 英治 南海トラフ地震の被害想定と対応について	H10: 藤田 裕 「ブラックアウト大作戦」が参加者の当事者意識と気づきを与える影響	I10: 頼政 良太 能登半島地震における足湯ボランティアの役割についての考察	J10: 岡村 泰光 家具転倒防止が進んでいる地域の行政支援とコミュニティの役割
14:40- 14:50	E11: 内村 優太 1944 年 12 月 10 日の滋賀県北部の地震(M5.3)における観測震度の妥当性に関する研究	F11: 赤松 京佳 地震災害に起因した企業本社移転の産業大分類・用途地域別分析—阪神・淡路大震災を対象として—	G11: 佐藤 史弥 研究者・実務者を対象とした火山対策スペシャリスト養成研修の概要	H11: 竹 順哉 防災啓発活動において「啓発する側」が「啓発される側」に立つことの意義:自治体職員自らが防災行動をとれていない理由を考えるワークショップ	I11: 有吉 恭子 孤立地域発生時における情報整理のプロセス—奥能登豪雨時の輪島市を事例として—	J11: 山形 真紀 地域安全学会「大規模災害における多量遺体の処置、遺体管理に関する研究小委員会」の活動について
14:50- 15:00	E12: 幸山 寛和 応急危険度判定実施前に建物の危険性を住民自身で判断するための補助ツールの開発	F12: 村上 大介 名古屋市港区・南区における津波浸水想定区域の人口推移と誘導区域の課題	G12: 丸林 創 都道府県が被災者の生活再建支援のために設置した組織について	H12: 筒井 和男 自治体による防災図上訓練の準備負担の調査と生成 AI を活用した図上訓練サポートシステムによる負担軽減の検証	I12: 塩津 達哉 令和 6 年能登半島地震における災害対策本部会議資料の実態解明—石川県輪島市の事例—	J12: 秦 康範 地震時の身を守るための標語とポーズに関する—考察:「おかしも(おはしも)」と「ダンゴムシのポーズ」に着目して
15:00- 15:05	時間調整 (5 分)					
15:05- 15:15	E13: 川端 寛文 既存木造住宅の耐震改修促進に向けた建築士グループの役割に関する考察	F13: 池田 浩敬 津波避難準備行動促進のためのワークショップの提案—沼津市我入道地区・常盤町地区での試行事例—	G13: 湯瀬 裕昭 実測による世代別 Starlink の性能比較と防災利用についての考察	H13: 佐藤 慶一 NFC カードを用いた防災イベントの参加者情報管理システムの開発	I13: 太田 和良 能登半島地震における広域支援に参加した派遣職員の意識調査	J13: 紅谷 昇平 自然災害時における応援職員派遣体制の効果的な構築と準備に向けた考察
15:15- 15:25	E14: 森 伸一郎 中央構造線断層帯でのセグメント運動を考慮した巨大地震の被害想定との必要性	F14: 越山 健治 大規模水害被災地の土地利用変化の分析	G14: 南沢 修 火山の状況に関する解説情報(臨時)に対する焼岳火山防災協議会の対応	H14: 守 真弓 中学生を対象とした防災ワークショップ	I14: 中本 健太 風水害時の自治体災害対策本部事務局の受電実態—令和 6 年奥能登豪雨時の輪島市を事例として—	J14: 福本 晋悟 男性・女性の両方のアナウンスメント音源を用いた津波避難キースターコメントに関する調査
15:25- 15:35	E15: 田中 聡 建物被害認定調査の調査精度に関する基礎的考察: 損傷程度判断のばらつきを検討	F15: 箱崎 又一 防災気象情報と地域住民の災害認知の関係性把握に関する研究—平成 30 年 7 月豪雨の聞き取りから—	G15: 米田 夏輝 災害経験の乏しい地域における防災システム構築の試み—北海道登別市を事例に—	H15: 上田 啓瑚 地域特性を踏まえた防災教育教材作成支援のための全国の防災教育手引き調査	I15: 藤原 宏之 令和 6 年能登半島地震への応援職員派遣を通じて得た教訓の社会実装に関する課題の分析—三重県への調査を通じて—	J15: 守 茂昭 日本災害食認証から窺われる備蓄用製品に寄せられる潜在ニーズ
15:35- 15:45	E16: 望月 智也 企業向け地震保険と建物の耐震補強の関連性に関する—考察	F16: 福田 敬正 追体験から学ぶ歴史災害—豊岡復興建築群まち歩き事例を通して—	G16: 野地 健太郎 道州制導入による東京一極集中緩和への影響評価に関する研究	H16: 古本 裕史 避難所入退所業務におけるマイナンバーカード活用の有効性評価	I16: 南 太賀 地域コミュニティの相互扶助と適切な受援体制の構築の実態—令和 6 年能登半島地震被災地の七尾市中島町小牧集落を事例に—	J16:
15:45- 15:55	E17: 岡田 恵実 応急危険度判定実施前に建物の危険性を住民自身で判断するための補助ツール有効性の検証	F17: 齋藤 真樹 熊本地震災害におけるコミュニティレベルでの相互支援に関する考察—緊急対応期から復興期の情報共有に着目して—	G17: 鍵屋 一 立法事実に見る災害福祉～災害救助法に福祉サービスの提供～	H17: 黒宮 マキ子 多様な利用者の特性に配慮した共生型福祉施設の事業継続マネジメントの課題～水害を経験した地域における施設アセスメントの事例報告～	I17: 福田 勝仁 聞き取り調査結果のテキストマイニング分析—令和 6 年能登半島地震における応援職員の事例—	J17: